



## 在日外国人を介護労働者として活用することで 外国人の経済的自立と日本の高齢者問題の解決をめざす

### プロフィール

フィリピン生まれ。1987年に国費留学生として来日。神戸大学経済学部、同大学大学院経済学研究科前期・後期課程修了。博士（経済学）。現財滋賀県国際協会理事。

博士論文のテーマはフィリピン人の国際労働移動に関する経済分析。神戸大学大学院国際協力研究科にて助教授（2001年5月～2003年3月）、2003年4月より龍谷大学国際文化学部にて助教授として勤める。現在の研究テーマは、高齢社会日本における外国人の役割、特に海外からの介護労働者の受け入れや介護労働者としての養成・雇用を通じての在日外国人（フィリピン人）の社会的・経済的統合について。

**まず、日本にいらっしゃるようになったきっかけについて聞かせていただけますか。**

18歳の時に国費留学生として来日、東京外国語大学で1年間日本語を学んだ後、神戸大学経済学部に入りました。私の家族は、昔から日本の大学の研究者がフィリピンに調査に訪れた時などに、滞在先として受け入れていましたので、自然と日本に対して興味を抱くようになりました。

**外国人労働問題、特にフィリピン人の国際労働移動というテーマに関心を持たれた理由は何ですか？**

私も日本では外国人ですし、エンターテイナーとして外国で働くフィリピン人のことも気になっていましたので、博士論文では出稼ぎ労働者のフィリピンに対する経済的効果をテーマにしました。

**外国に働きに行く人たちについて、フィリピン国内ではどのような受け止め方をされていますか？**

外貨の獲得につながるので政府は歓迎していますし、家族のどれか一人が海外に行くと生活が豊かになるので、本人も不安はありませんが家族のためなら喜んで行くのが一般的です。けれどもフィリピン国内でも批判的なグループもあります。頭脳の流出や<sup>\*</sup>介護労働者問題もフィリピン国内で看護師が足りなくなるといった批判が起きています。

**現在、日本で暮らすフィリピン人にとって、主にどんなことが問題になっていますか。**

給料が低いとか他の外国人労働者と同じ問題を抱えています。その中で日本人と結婚している人たちには別の問題があります。彼女たちは経済的な自立ができていません。夫と離婚したいけど、自分で生活できないという問題が増えています。日本人と結婚したフィリピン人の4割くらいは離婚していますが、彼女たちの多くはフィリピンに帰らず、日本で子どもを育てるために働きたいと望んでいます。

**現在、大学で教えておられますが、学生さんたちにどういことを伝えたいと思っておられますか。**

なるべくアジアにつながる授業をしています。日本はアジアの国だし、中国人留学生も多いので、欧米より身近なところからアジアの経済を伝えたいと考えています。

**授業に対する生徒の反響はいかがですか。**

とてもいいですね、中国は特に経済がいいので、中国語を習いたいという学生も増えています。中国、台湾、韓国への留学を希望する学生も増えています。学生の考えも変わってきて、アジアに興味を持つようになってきたと思います。また、ゼミでは、留学生と日本人学生の交流を図るようにしています。

**日本人の学生を見て感じられることはありますか。**

「ここにいるためにいくら機会費用がかかるかわかっていますか。勉強しないとつまらないですよ」といつも最初の授業で学生たちに言います。日本の学生は、言ったことはきちんとしてくれますが、何も言わずにほったらかしにするとか何もしません。テーマとか与えて、当てて答えさせるとか……いろいろ工夫しています。

**今後も研究を続けられると思いますが、取り組んでみたいテーマはありますか。**

しばらくは介護労働者問題をテーマにするつもりです。この前フィリピンと日本は協定を結びましたが、現段階ではフィリピンから介護労働者を呼ばなくても在日フィリピン人を活用したほうがいいというのが私の考えです。

これは日本の高齢社会問題の解決だけでなく、日本に住んでいる外国人の経済統合、自立を助けることになります。年を取ってエンターテイナーとして働けなくなっても、日本に住みたい人にとって、介護が一つの方法になります。たいへんな仕事ですが、ずっと日本に住めるし安定した収入を得ることができます。

もう一つは2年前に取り組んだ、経済とゴミの関係、環境問題に戻りたいと思っています。経済発展の中でゴミ問題も重要な問題だと思いますが、時間的になかなか余裕がありません。

**在日フィリピン人に介護の仕事をしていただいた場合、その人たちが年を取った時に新たにフィリピンから介護労働者を**

**受け入れるということになるのではありませんか。**

私が考えているのは、ことばは悪いですが「つなぎ」として、現在いる在日フィリピン人を介護労働者として養成するということです。将来は先輩としてフィリピンから来る人を教育したり、日本の文化を教えたりできると思います。介護労働者は今はいらなくても5年後、10年後には必ず必要になります。その時にフィリピンから呼ばなくてはなりません。現時点では眠っている人材を活用することが大切です。

**日本で暮らしておられて、文化的な違いを感じられることはありますか？**

留学生時代に大教室で質問されて、だれも答えないので手を挙げて答えたら、日本人の友達から「そういう時は知らないふりをしたほうがいい」とか、「勇気がありますね」とか言われました。フィリピンではだまっていると先生も学生もいい気持ちがないので、学生は教室で活発に発言します。

それから日本人の家に誘われた時に「友達と一緒に」と言われたので連れて行ったのですが、よく聞くと本音と建て前があるということがわかりました。今もどちらかよくわからないことがあります。

おそらく日本の文化を完全に理解することはできないと思いますが、少しでも知るようにならなりたいと思います。

**最後に滋賀県のみなさんに何かメッセージをいただけますか。**

これから多文化社会になりますので、外国人も努力して日本の文化を知ること、これがいちばん最初の社会的統合になると思います。相手の文化を理解する努力をしないと自分もわかってもらえないのです。日本にいる外国人と話してみると、ここでごんばっても限界があるとか、半分くらい諦めています。

日本人側も同じで、ステレオタイプにとらわれなくて、その中でもいろいろな人がいるということを知るようにしてほしいですね。

<sup>\*</sup>厚生労働省は日本とフィリピンの経済連携協定に基づき、フィリピン人看護師・介護福祉士を2年間で最大1000人受け入れるとした。来日後半年の日本語研修、日本の国家資格の取得など、条件をつけている。